

次世代のサービス品質技術

小特集編集にあたって

編集チームリーダー 塩本公平

インターネットに代表されるように IP 網が普及し、社会インフラの一翼を担うようになった。IP 網が社会インフラとしての役割を拡大していくにつれて、通信網が運ぶ対象は電話のみならず、多様なサービスまで対象となってきた。リアルタイム系のものもあれば、非リアルタイム系のものもある。メディアに関しては、音声、画像などをはじめ様々なものがある。それらの通信方式には符号化方式やプロトコルに関して様々なものがある。

このような通信サービスの多様性は IP 網のみならず社会インフラとしての通信網に求められていくものであろう。今後の通信網では、従来の電話網では考えられていなかった、多様な様々なサービスを提供し、サービスに応じた通信品質を満足しなければならない。電話網においては、100 年以上の歴史を持ち、その発展の過程で、サービス品質技術が確立されてきた。これからの通信網で提供されようとしている多様なサービスに対しても、同様なサービス品質技術の確立に向けた取組みが必要であり、事実、世界中の研究機関で日々、研究開発が進められている。

本小特集号ではこれからの社会インフラとしての役割がますます増えていく通信網におけるサービス品質技術に関して、最新の技術動向を取り上げた。

はじめに、東京医療保健大の阿部先生、名工大の石橋先生、NTT の吉野氏に次世代のサービス品質技術動向について、特に、QoE と QoS によるサービス品質管理技術について概説頂いた。

次に、NTT の高橋氏に音声・映像サービス品質評価・推定技術の標準化動向について、特に、主観的なユーザ体感品質 (QoE) を客観的に評価する取組みについて概説頂いた。

次に、KDDI 研の長谷川氏、阿野氏、九工大の鶴先生、尾家先生に大規模ネットワークでの品質計測・障害推定技術、インターネットのインフラ化を支える計測技術の研究動向について概説頂いた。

次に、朝日大の矢守先生、早大の田中先生にユーザの効用から見た通信品質制御とその評価、ユーザを満足させる本当の通信品質制御とは何かについて概説頂いた。

次に、ソニーの板倉氏、NHK の青木氏に IP 映像伝送に要求されるサービス品質と品質確保技術に、リアルタイム大容量伝送を支える品質確保技術について概説頂いた。

次に、メディア教育開発センターの大西先生、名工大の石橋先生に「触覚」という新しい通信コミュニケーションの形とサービス品質について概説頂いた。

最後に、NICT の山崎氏に次世代ネットワークにおけるユーザの視点に立ったサービス品質の研究動向と将来展望について述べて頂いた。

通信ネットワークの社会インフラとしての役割と期待はますます大きくなり、様々な要求品質のサービスが提供されるであろう。そのときに、サービス品質技術が重要な役割を果たすと考えられる。本小特集号がサービス品質技術の動向をお伝えできれば幸いである。

最後に、執筆者の皆様、小特集編集チームの皆様、学会事務局の皆様、コミュニケーションクオリティ研究専門委員会の皆様をはじめ、本企画を進める上で御協力御支援頂いた方々に心より御礼申し上げます。

小特集編集チーム	塩本公平 笹田武志	大塚祥広 山本全昭	池川隆司 吉野秀明	長谷川輝之 青木仁志	大塚昌孝
----------	--------------	--------------	--------------	---------------	------